

# 布施の心

21

本多 克也

(重字)

文・徳永 耕一

「独立(4)捨てる神、拾う神」

UVベルトがヒットしてからは、閑古鳥が鳴いていた今までが嘘のように、岩崎電気や大日本インキなどだけでなく、日本電池やウシオ電機など大手からも注文が入ってきた。

しかし、材料(シート)の仕入れのメドがなかなかつかず、焦った。というのも、以前勤めていた会社に打診したところ、「何に使うのでしょうか?それが分からなければ、お出しできません」と、にべもなく断られたのだ。それだけでなく、同社は他社にも手を回して、私の材料調達を妨害した。その結果、どのメーカーからも取り引きを断られたり、法外な見積り金額を提示されたりして、兵糧攻めに遭った。同社は私の独立を快く思っていないかったのだ。

(現社長はとても立派な方で、すっかり関係も修復している。あるとき「おたくは、『本多産業を潰すんだ』って息巻いていましたよ」と当時のことを話すと、「えっ、そんなこともあったんですか」と、笑いながら驚いていた)

私は「四面楚歌」に陥った。残る最後の頼みは、アメリカが本社のケミカルファブリック社しかない。同社を思い切って訪問して、エドウィン・J・エメット副社長に実情を話して懇願した。

エメット副社長は、私の置かれた事情に耳を傾けてくれて、私が話終わると「OK」とその場で供給を約束してくれた。

日本人はとかく周りを気にしたり、形式や素性にこだわったりしがちだが、外国人の場合、フランクに人対人で話せることも多い。私は、オープンなエメット氏に救われた。

その後、エメット氏がどうしてもということ、豚小屋を改造した工場を見せた。後にも先にも、エメット氏が初



エメット氏との写真

2023年3月本多産業株式会社は  
設立50周年を迎えました。



本多産業株式会社

【本 社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814  
TEL:045-869-1133  
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677  
TEL:0957-38-3520

めてだった。見学したとたん、「グッドハウス!」とジョークで笑い飛ばしてくれた。

その後親しくなると、エメット氏は狭い我が家にも来てくれたことがあったが、まだ幼い私の二人娘に冗談でチユーを迫るものだから、娘たちがキャッキヤ言って逃げ回った光景を今でも覚えている。

エメット氏は、材料供給を約束してくれただけでなく、「基本となる基布も作れ」と、貴重なアドバイスをくれた。それをすぐには実行できなかったが、エメット氏の写真はいつも私の応接室に飾って、忘れることはなかった。

三十年経った今、ようやくエメット氏のアドバイス通り、川上からの生産に取り組み始めた。

エメット氏は、槌屋に入社以来親身になって指導してくれた岡野さんとともに私の大切な仕事の恩人だ。

次に出現した大きなハードルは、原料(テフロン)問題だった。量産して利益を出すためには、半製品ではなく、原料そのものを仕入れなければいけない。

しかし、ここでも兵糧攻めが待っていた。DU社やDK社にはすでに前の勤め先から手が回ってブレーキがかかっており、取引は冷たく断られた。

ところが、A社のみは、担当の方がわざわざ事情を聞きに来てくれて、「ブロックするのはおかしい。当社はお出ししますよ」と積極的に応じてくれた。そして、すぐにサンプルをドンと送ってきてくれた。

これで、製品製造の目処がついた。「捨てる神あれば、拾う神あり」、私はまたしても九死に一生を得た。

以来、今日まで、他のメーカーとは一切取引せず、恩を受けたA社一本に絞っている。

東日本大震災でA社の工場がストップして極端な品不足に陥ったこともあったが、同社はそのような状況にもかかわらず、「本多産業を困らせてはいけない」と、当社に特別の配慮をしてくれた。

〈次回4月10日掲載予定〉